

2020年11月24日
日本郵便株式会社

特殊切手「自然の記録シリーズ 第1集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 衣川 和秀）は、科学的な観点で自然由来のものが描かれた写生画などを題材とした、特殊切手「自然の記録シリーズ 第1集」を発行します。第1集は植物精密画を取り上げます。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	自然の記録シリーズ 第1集
発 行 日	2021年1月22日(金)
種 類	84円郵便切手(シール式)
切 手 画 像	別紙のとおり
シ 一 ト 構成・意匠	<p>(1) 水仙 (すいせん) (2) 寒菊 (かんきく) (3) 薑菜 (すみれ) (4) 幣辛夷 (しでこぶし) (5) 山蘭 (ほくろ／しゅんらん) (6) 瓔珞躉躅 (ようらくつつじ) (7) 粉團花 (こでまり) (8) 射干 (しゃが) (9) 菩薩莢 (ぼさつばら) (10) 紫陽花 (あじさい)</p> <p>余白 : 水仙の線画 陽明文庫蔵 『花木真寫』</p>
売 価	840円(シート単位で販売します。)
小 切 寸 法	縦30.0mm×横25.5mm
印 面 寸 法	縦27.0mm×横22.5mm
シート寸法	縦86.0mm×横160.0mm
助言・監修	五十嵐 公一(大阪芸術大学 教授)
切手デザイン	星山 理佳(切手デザイナー)
版 式 刷 色	オフセット6色
発 行 枚 数	2,000万枚(200万シート)
販 売 場 所	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の郵便局など ・「郵便局のネットショップ」^(注) ・銀座郵便局での郵便振替による通信販売

2 発行する郵便切手のデザインについて

かほくしんしゃ <『花木真寫』について>

中国で薬草に注目した本草学が成立しました。それが日本に伝わり、植物への関心が高まります。そして江戸時代になると多くの植物図譜が作られました。それらの図譜のうち、最も早期に作られ、最も本格的なものが『花木真寫』全3巻です。

これを作ったのは閑白、摂政を務めた近衛家瀬（このえいえひろ 1667～1736年）です。家瀬は有職故実に通じ、書道・香道・茶道・華道などに秀でた当代一級の文化人であり、知的好奇心の大変強い人でした。

その家瀬の余技として『花木真寫』は作られました。ここには、縦30センチほどの3巻に125図の植物が正確に描かれています。画面には植物名の墨書きがありますが、こちらも家瀬自身によるものです。

『花木真寫』は、日本の植物図譜の嚆矢こうしとされている作品です。そのため、本シリーズの第1集として、取り上げました。

<切手のデザインについて>

(1) 水仙（すいせん）

高さ15～50センチほどの多年草で、海岸近くなど湿地に群生します。花は12～3月に咲き、芳香があります。

『花木真寫』には、横向きに花が咲く水仙の特徴が的確に描かれています。水仙は人気が高く、福井県を始めとした多くの地方公共団体の花に指定されています。

(2) 寒菊（かんきく）

高さ50～100センチほどの多年草です。12～1月に花が咲きます。寒菊は寒さに比較的強く、霜に遭うと葉の色が変わる特質があります。『花木真寫』に描かれているのは、この状態です。

(3) 薙菜（すみれ）

高さ7～11センチほどの多年草です。3～5月に濃紫色の花が咲きます。可憐な姿をしたスミレですが、瘦せ地でも育つ強い植物です。アスファルトの裂け目からでも生えてきます。

『花木真寫』には「薙菜」と記されていますが、これは平安時代の辞書『和名類聚抄わみょうるいじゅしとう』に出てくる言葉です。

(4) 幣辛夷（しじこぶし）

高さ3メートルほどの落葉中高木です。3～4月に花が咲きます。細い花弁が開いた姿が神事で使われる紙垂しでを連想させることから、シデコブシと呼ばれます。湿地や小さな川沿いで生育しますが、野生種の絶滅が危惧されている植物もあります。

(5) 山蘭（ほくろ／しゅんらん）

葉の長さが20～50センチほどの多年草です。3～4月に淡い黄緑色の花が咲きます。日当たりの良いところに生え、花には淡い芳香があります。『花木真寫』では、葉も部分によって色目に変化をつけて丁寧に描かれています。

(6) 瓔珞躰躅（ようらく躰躅）

山地に生える高さ1～2メートルほどの落葉低木です。5～6月に紅紫色の小さな筒状の花が下向きに咲きます。『花木真寫』でも、それが的確に描かれています。瓔珞といふのは、仏像や仏堂の装飾具のことです。その形の連想から瓔珞躰躅の名があります。

(7) 粉團花（こでまり）

高さ1～2メートルほどの落葉低木です。4～5月に葉や細い枝が見えなくなるほど、多数の白い花が集まって咲きます。枝が垂れる姿が見事です。江戸時代から栽培されていました。

『花木真寫』では葉の裏が緑白色で描かれています。これは粉團花の特徴です。

(8) 射干（しゃが）

森林の木陰などやや湿った場所に群生する高さ 50~60 センチほどの多年草です。4~5 月に白っぽい紫のアヤメに似た花が咲きます。平安時代の『和名類聚抄』にも出てくる植物です。

『花木真寫』では花と茎の部分が別々に描かれています。これは植物図譜の性格が表れた部分だといえます。

(9) 菩薩茨（ぼさつばら）

5~6 月に深紅色の花が咲くようです。『花木真寫』には、江戸時代の園芸品種を知る上での貴重な植物が記録されています。この菩薩茨はその一つです。中国に野生する野バラから栽培化されたものと見られています。花の濃淡が描き分けられています。

(10) 紫陽花（あじさい）

高さ 1.5~2 メートルほどの落葉低木で、水はけがよく湿潤な場所を好む植物です。6~7 月に花が咲き、開花後は徐々に花色が変わっていきます。古くから日本で愛されてきた花で平安時代の『和名類聚抄』にも出てきます。『花木真寫』には、茎にある皮目もしっかりと描かれています。

3 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

(注) 「郵便局のネットショップ」への掲載は、2021 年 1 月 22 日（金）の予定です。

以上

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-2328-86（フリーコール）

携帯電話から 0570-046-666（有料）

<受付時間 平日 8:00~21:00

土・日・休日 9:00~21:00>